

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	有限会社歩未
事業所名	グループホームあゆみ
所在地	愛媛県松山市北久米町933-1
自己評価作成日	平成22年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 6 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体機能の低下した方が増えており、まとまった外出の機会が持てなくなりつつある為、ホームでの生活を楽しめるよう、室内での行事を工夫したり、個別援助で、ご本人の想いが達成出来るような支援に力を入れている。 又ケアプランの目標を全職員が周知し、毎日チェックを行い、ご本人の想いを理解し、プランの評価に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関やリビングには、利用者が芸術療法で製作したすてきな作品が飾られている。職員は利用者優しく声かけを行い、会話や表情から思いを把握し心のこもったケアが提供できている。毎日の散歩を心がけ、車いす利用者もホームの庭に出て外気に触れリフレッシュしたり、買物や季節の行事(お花見や菊花展など)、観劇等にも出かけ楽しんでる。地域の人の理解、協力を得て、地域のいきいきサロンや盆踊り等にも参加している。食事前には口腔体操を行い機能維持に努めたり、健康診断を行う等、健康管理には十分配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あゆみ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 高須賀 幸子

評価完了日 22年 6月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づいたケアプランを作成、実施について度々、職員会議等で話し合い、入居者・ご家族の想いや気持ちが反映出来るよう職員全員で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 理念「笑顔で自分らしく、楽しい暮らし」を全職員で作成し、玄関と各ユニットのリビングに掲げている。全職員は理念を共有しつつケアの実践に努めている。</p>	理念に基づいた行動目標の作成を全職員で検討する等、理念をさらに具体的に実践するための工夫を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の催し物への参加、いきいきサロン等地域の主催する行事に参加している。又夏祭り・クリスマス会・花見には地域の方を招いて交流の場を持っている。</p> <p>(外部評価) 地域のいきいきサロンや盆踊りに参加し交流を楽しんでいる。ホーム主催のクリスマス会やお花見、夏祭りでは地域の方にも参加してもらい一緒に楽しんでいる。小学生の体験学習や高校生の実習の受入も行っている。また、地域からの依頼で認知症に関する講習会の講師を職員が務め、地域貢献も行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域で行っている認知症の勉強会の講師等を通して、地域の人々に認知症の理解をしてもらい、支援の方法等を必要に応じて相談に乗っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホームでのサービス内容・行事等の報告及び意見の汲 み上げを行っている。行事の時には地域の方より提案 を頂いたり、備品の貸し出しも協力して頂いている。 年に1度は防災訓練を会議の日に計画し参加して頂 き、災害時の協力体制の整備にも繋げている。	
			(外部評価) 会議は年間6回、地域の様々な立場の方の出席を多数 得て開催している。出席者は会議の意義や役割を理解 しており、活発に意見交換を行っている事が詳細に記 録された議事録から伺える。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課、市社協等に介護事故の報告や相談・助言 を仰ぎ、協力関係の構築に努めている。地域包括支援 センターの開催するセミナーや勉強会に参加してい る。	
			(外部評価) 市の担当者に各種報告や関係書類の様式変更などに関 して、相談や助言を得るように努めている。生活保護 受給者についても担当者と十分に話し合って連携を とっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は常に開放しており、出入りは自由に出来るよう にしている。ベッド上において、危険が伴う場合につ いては、ご家族と話し合いを持ち、同意があれば、 ベッド柵での拘束はある。定期的に勉強会を開催し、 職員の理解・意識向上に努めており、拘束時間は出来 る限り少ない時間になっている。不用と判断後はすぐに 中止している。	
			(外部評価) 職員は身体拘束禁止の法令について、一層理解を深め るため勉強会を行っている。玄関の施錠は夜間以外し ていない。玄関と各ユニットを通るとチャイムが鳴る が、職員はそれに頼らず、常に外出傾向を把握し安全 な生活の確保に努めている。外部からの侵入や徘徊等 の緊急時には契約している警備会社と連携をとり対応 している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会議・担当国会議の時に勉強会を開催し理解出来るように努めている。又マニュアルを作成し閲覧出来るようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員会議・担当国会議の時に勉強会を開催し理解出来るように努めている。又マニュアルを作成し閲覧出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度、管理者が説明を行い、質問を受けている。必要に応じ書面を作成し、個別に対応している。職員に対しても勉強会を持ち、改訂内容を伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が面会に来られた時は必ずご家族と話をすることを心掛け、普通の会話の中から、ご要望等はないか？くみ取れるよう注意している。無記名の「ホーム長直行便」のハガキを設置・定期的にご家族へ送付し、意見の聞き取りに努めている。 (外部評価) 「ホーム長直行便」というハガキや満足度アンケート調査（無記名）を家族に配布し、意見や要望を言いやすいようにしており、寄せられた意見は職員全員で話し合いケアに反映させている。職員は家族が面会に来た際には積極的に声かけを行うよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に職員に「改善シート」を配布し、意見や提案を聞く体制を整えている。職員会議に必ず、一人ひとりが意見を持ち参加するようにし、発表しやすい環境を作り、問題があれば改善するようにしている。</p> <p>(外部評価) 代表者は毎日ホームを訪れ職員とコミュニケーションを図っており、職員も気軽に意見を伝えることができる。代表者も出席する会議は、話しやすい雰囲気作り心掛け職員一人ひとりが意見を出し合い、話し合ったことを共有してケアに反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員確保、業務調整はその都度柔軟に調整している。個々の職員がやりがいを持てるように給与水準も少しづつあげている。自己評価し「楽しく仕事をする為に」をテーマで行い、各自の向上心を持って、働けるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 新人はプリセプターシップをとっている。毎月勉強会を開催し、全職員が参加出来るように計画している。必要であれば個別に対応している。外部研修にも参加の機会を作れるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他グループホームとの交流はあるが勉強会はしていない。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居者本人又はご家族から生活をしていく上での希望や悩みなどを聞き、ケアプランに取り入れ全職員が把握するよう努めている。相談から利用に到るまでに本人又はご家族に出来る限り、情報を集めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会に訪れた時などに、ご家族が思っている事や不安な事を傾聴していき、全職員が受け止めていけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」何が必要か、ご家族と本人と話しながら、その人にあった、サービスを（グループホームに適しているかどうか）検討行い、他のサービスの紹介、説明をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 得意な事、好きな事などの手伝いをしてもらったりしながら、会話を重ね、出来る限り、職員と密な時間を共有する事で安心してもらえるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 花見・夏祭り・クリスマス会などの行事に参加してもらい、少しでも一緒に過ごせる環境を作り、面会時などには日々の生活を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 各方面の方からの面会もあり、県外の方で面会に来られない方は電話や葉書にて場合によっては葉書を代筆し支援に努めている。 (外部評価) 近隣の人が散歩の途中で立ち寄ってくれる等、近隣住民とも良好な関係が築かれている。家族が面会に来た際にはゆっくり過ごしてもらえるよう心がけている。また、理美容師の訪問や、移動パン屋の販売等も馴染みとなっており利用者は楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングをホームポジションとし食事時以外でも他者との交流がはかれる様に努めている。また、散歩やレクリエーションを通して他者との関係の構築をはかっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後もご家族と連絡を密に取り、本人の様子など相談を受けることにより関係を断ち切らない様に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃の会話などから本人の思いを聞き出し、安心して生活していただく為にはどうしたらいいのか職員間で話し合う機会を設けている。 (外部評価) 日々の生活の関わりの中で信頼関係を築き、要望を聴き取るように努めている。コミュニケーションのとりにくい利用者には寄り添い、表情や態度から思いを把握している。家族にはホーム便りを発行し生活の様子を知らせ、さらに面会時には要望を聴き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に管理者がご家族や本人からこれまでの暮らしなど聞き取りを行い、入所されてからも関わりの中から本人の思いを聞きだせる様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録やセンター方式などを使用し、本人の1日の流れを把握している。日頃の生活の中でも、本人の得意な事を見つけ出し、それをしていただくことにより自信回復などにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的なケアプランの見直し、状態の変化や入院等で日常動作の相違が生じた時は、その都度見直している。入居者本位のプラン作成に努めている。 (外部評価) 利用者の思いを大切にプランに反映させるよう努めている。介護記録に実施状況を記載しそれをデータ化して1か月ごとに評価を行っている。利用者一人ひとりに担当者をつけ担当者がプランの素案作りをする。全職員で検討し必要に応じて医師等の関係者にも相談している。家族の意見も聞き取り、最終確認もしてもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の記録は生活記録にしている。気付いた事やケアのヒント等は申し送りノートに記入している。またプランの評価を個別に残し会議の時に情報を交わし活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体調不良等、通院や送迎時必要に応じて支援している。又、医師とご家族とも相談し、マッサージが必要な方は在宅療養マッサージを依頼し利用している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のいきいきサロンへの参加や夏祭りへの参加、又ホームの夏祭りやクリスマス会等への参加を地域の方々から協力していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 協力医療機関とは別の病院で受診を希望される場合、 医療機関を相談し往診を受けたりご家族の協力を得て 受診してもらっている。看護師が対応し連携医療機関 の確保はしている。	
			<p>(外部評価)</p> 主治医による月2回の往診や、年1回の健康診断を実 施しており健康管理には十分配慮している。また、入 居以前からのかかりつけ医や医療機関で見てもらっ ている利用者もおり、利用者や家族の希望を尊重して いる。緊急時には対応できるように連携体制を整えて おりマニュアルを作成している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 日常的に入居者の健康状態を、ホーム内の看護師に報 告し、必要に応じた支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院見舞い、ご家族の希望を聞き相談を行っている。 長期間入院により重度化しないよう病院と連携を取り 経過の確認をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> ご家族と十分に話し合いながら、本人やご家族の気持 ちを大切にしながら安心感が持てるよう対応している。急変 時にはすぐに対応してもらえるように事前に医療機関 との連携もとれている。	
			<p>(外部評価)</p> 看取り介護については、利用者の状況に合わせて家族 と話し合いを密に持ち、さらに主治医や協力医療機 関、看護師、職員等関係者全員で連携をとりながら利 用者本位のケアができるよう努めている。	看取り介護についての基本的な学習を計画的に行い、 利用者の急変時にも対応できる知識や技術をさらに習 得するよう希望したい。また、マニュアルを作成し職 員が熟知しておく事でスムーズな対応が可能になるた め、検討することを希望したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な研修は行っていないが入居者の予測できる急変や事故について個別に指導を行っている。また、マニュアルを作成し新人研修で必ず指導を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力で年2回の防災訓練を行っている。災害用グッズを備えている。災害時マニュアルを作成し、緊急時にスムーズに対応できるようにしている。地域の方の協力もあり災害時には連絡すると応援に来ていただけるようになっている。 (外部評価) 避難訓練を年2回、うち1回は消防署の指導の下で実施し、内容も夜間想定の実地訓練を行う等災害に対する意識は高い。また、地域の自主防災組織が行った防災訓練にも参加し、住民や近くの高校の生徒の協力を得て避難、消火の訓練も行った。スプリンクラーや火災通報装置も設置している。	利用者の居室には大型の家具等はないが、地震に備え危険と思われる所を入念に確認し、食器棚を固定する等の対策をとることを希望したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけないような配慮したケアや声掛けを行っている。一人ひとりの性格やその時々状況に合わせた対応声掛けに配慮している。 (外部評価) 個人情報の保護の大切さを管理者を始め職員は認識しており、細心の注意を払っている。また、職員一人ひとりが人生の先輩である利用者に対し尊敬の念を持って接している。居室には内鍵をかけることができ、利用者の意思で居室への立ち入りを制限する事もできる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望を引き出せるようコミュニケーションを取り担当者が利用者の意欲を引き出す為のサービス計画を立て全職員が実践に向けて協力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者の体調や気分に合わせて日々支援している。レクリエーション・行事等では声掛けを行い、拒否されれば無理や強制はせず、希望に応じた支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝、洗顔・整髪・髭剃り等身だしなみが整うよう支援している。定期的に理・美容師の来訪あり、散髪もしている。清潔な衣類を身につけるよう声掛けし、日々着用する衣類も入居者個人が選び、その人らしく着こなせるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) キザミ食、ミキサー食を取り入れ入居者に合わせ対応している。好みの食事ができるようにメニューも考えている。食事前後の片付け下準備などは、職員と供に行い、野菜の収穫などで食事への意欲へと繋げている。 (外部評価) 食前に口腔体操を取り入れ、誤嚥防止や機能維持に努めている。ホワイトボードに献立が書かれていたり、食事時間が近づくと職員が献立を話題にする等、雰囲気作りもされ職員と利用者が一緒に食事を楽しんでいる。利用者の状態に応じた食事形態を取る等配慮がされている。ホームの菜園で収穫した野菜を調理することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事からだけでは十分に吸収できない方については、主治医と相談し必要に応じて栄養補助食の処方を受け対応している。食事量・水分量等はチェック表に記録し1日の必要量が摂取できているか、毎日確認している。それぞれの方の好みの飲み物も把握し、飲みたいものが飲めるように配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けの誘導を行い、必要な方は介助し口腔内の清潔保持に努めている。自力でのうがい不可能な場合は口腔清拭にて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表などを使用し、個々の排泄パターンを把握し声掛け、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェックが詳細に記録されており、職員は排泄パターンを把握している。さりげなく声かけをしながら、それぞれに適した方法で排泄支援にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事に繊維の多いものを取り入れたり、リハビリ体操や散歩など運動の場を取り入れ、便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者に応じて、介助方法・介助人数を変え、個々に応じて入浴回数・順番を考慮し柔軟に対応している。又、異性を気にされる方などに対しては同性の職員などが対応し、入居者にとって入浴が一つの楽しみになるように努めている。	
			(外部評価) 少なくとも週に3回は入浴するように計画されているが希望や身体状況により柔軟に対応している。機械浴を設置しており、重度化しても安楽に入浴できるよう準備されており実際に使用している利用者もいる。浴室は明るく、優しい色彩のタイルで気分も安らぐ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 使い慣れた寝具等を使用する事によって、本人が快適に安心して過ごす事が出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に配薬箱を使用している。服薬時は手渡し飲み込みの確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の楽しみや、したい事を理解した上で家事、畑仕事などケアプランとして実施し、役割を持って過ごして頂ける様に支援している。また、年間行事など季節に応じた催しをするようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩に出掛けたり、定期的に外出、買い物行事を企画している。また、個別ケアとして本人の行きたいところなどに出掛けたり、地域の行事への参加など戸外に出掛けられるよう支援している。	
			(外部評価) 毎日の散歩やホームの庭に出て外気に触れる等、利用者の状態に合わせて個別に外出支援している。また、スーパーや大型の衣料品店等での買い物や、お花見、菊花展等の季節の行事や催し物に、地域の方の協力を得ながら計画的に外出できている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる方は、小遣い程度は所持し出張バン屋の来訪時や外出の買い物時に使っている。大きな買い物時、管理できない方はホームで立て替えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を読んだり、電話を掛ける場合は、居室でゆっくり時間が取れるようにしている。自力では困難な場合は、1対1で対応し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が塗った塗り絵や入居者同士で協力して作った作品をリビングや玄関に飾り、共通の話題が増えるようにしている。入居者それぞれの得意な事・好きな事に合わせて、畑や観葉植物・日めくりカレンダーを設置するなどの工夫をしている。	
			(外部評価) 玄関やリビングはゆったりとしたスペースが設けられ、利用者が芸術療法で制作した素敵な作品が飾られたり、観葉植物が置かれたりしており居心地よく過ごせるよう配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共通空間の中にも、個人に合わせて座りやすい椅子を用意し、入居者同士の相性を考慮して座位置を決めて、過ごしやすい居場所になるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具やテレビ等、なじみの物を使用されたり、本人が絵や写真、家具をレイアウトし、自分好みの居心地の良い部屋になるように工夫している。布団での就寝を望まれる方はベッドをのけて、床にマットと布団を敷き安心して、睡眠がとれるように工夫している。	
			(外部評価) 居室にはテレビや仏壇、時計、観葉植物等利用者の希望や生活スタイルに応じた物を自由に持ち込んでもらい、利用者本人が居心地よく心安らぐよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 必要に応じて椅子に杖たてを作りつけ、杖歩行の方が、椅子に安全に腰掛けれるような工夫をしたり、動いた際に、テーブルの端で怪我のないように、タオルを貼り付ける等の工夫をしている。又、必要な方には車椅子と歩行器を準備し、体調に合わせて勧め、安全かつ自立出来るように努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105669
法人名	有限会社
事業所名	グループホームあゆみ
所在地	愛媛県松山市北久米町933-1
自己評価作成日	平成22年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 6 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現状の機能が低下しないよう、曜日毎のプログラムを作り、それを生活リズムに組み込み、筋トレ・芸術療法等の色々の療法を行っている。又個別援助で生活の活性化を図るよう支援している。又ケアプランの目標を全職員が 周知し、毎日チェックを行い、ご本人の想いを理解し、プランの評価に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関やリビングには、利用者が芸術療法で制作したすてきな作品が飾られている。職員は利用者優しく声かけを行い、会話や表情から思いを把握し心のこもったケアが提供できている。毎日の散歩を心がけ、車いす利用者もホームの庭に出て外気に触れリフレッシュしたり、買物や季節の行事(お花見や菊花展など)、観劇等にも出かけ楽しんでいる。地域の人の理解、協力を得て、地域のいきいきサロンや盆踊り等にも参加している。食事前には口腔体操を行い機能維持に努めたり、健康診断を行う等、健康管理には十分配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あゆみ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 高須賀 幸子

評価完了日 22 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づいたケアプランを作成、実施について度々、職員会議等で話し合い、入居者・ご家族の想いや気持ちが反映出来るよう職員全員で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 理念「笑顔で自分らしく、楽しい暮らし」を全職員で作成し、玄関と各ユニットのリビングに掲げている。全職員は理念を共有しつつケアの実践に努めている。</p>	理念に基づいた行動目標の作成を全職員で検討する等、理念をさらに具体的に実践するための工夫を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の催し物への参加、いきいきサロン等地域の主催する行事に参加している。又夏祭り・クリスマス会・花見には地域の方を招いて交流の場を持っている。</p> <p>(外部評価) 地域のいきいきサロンや盆踊りに参加し交流を楽しんでいる。ホーム主催のクリスマス会やお花見、夏祭りでは地域の方にも参加してもらい一緒に楽しんでいる。小学生の体験学習や高校生の実習の受入も行っている。また、地域からの依頼で認知症に関する講習会の講師を職員が務め、地域貢献も行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域で行っている認知症の勉強会の講師等を通して、地域の人々に認知症の理解をしてもらい、支援の方法等を必要に応じて相談に乗っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホームでのサービス内容・行事等の報告及び意見の汲 み上げを行っている。行事の時には地域の方より提案 を頂いたり、備品の貸し出しも協力して頂いている。 年に1度は防災訓練を会議の日に計画し参加して頂 き、災害時の協力体制の整備にも繋げている。	
			(外部評価) 会議は年間6回、地域の様々な立場の方の出席を多数 得て開催している。出席者は会議の意義や役割を理解 しており、活発に意見交換を行っている事が詳細に記 録された議事録から伺える。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課、市社協等に介護事故の報告や相談・助言 を仰ぎ、協力関係の構築に努めている。地域包括支援 センターの開催するセミナーや勉強会に参加してい る。	
			(外部評価) 市の担当者に各種報告や関係書類の様式変更などに関 して、相談や助言を得るように努めている。生活保護 受給者についても担当者と十分に話し合って連携を とっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は常に開放しており、出入りは自由に出来るよう にしている。ベッド上において、危険が伴う場合につ いては、ご家族と話し合いを持ち、同意があれば、 ベッド柵での拘束はある。定期的に勉強会を開催し、 職員の理解・意識向上に努めており、拘束時間は出来 る限り少ない時間になっている。不用と判断後はすぐ に中止している。	
			(外部評価) 職員は身体拘束禁止の法令について、一層理解を深め るため勉強会を行っている。玄関の施錠は夜間以外し ていない。玄関と各ユニットを通るとチャイムが鳴る が、職員はそれに頼らず、常に外出傾向を把握し安全 な生活の確保に努めている。外部からの侵入や徘徊等 の緊急時には契約している警備会社と連携をとり対応 している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部の研修会に参加している。定期的に全職員対象の勉強会を開催し、意識向上に努めている。小さな内出血、傷等も見過ごさないように注意し、発見時は原因を探り又ご家族へ報告を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員会議・担当会議の時に勉強会を開催し理解出来るように努めている。又マニュアルを作成し閲覧出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度、管理者が説明を行い、質問を受けている。必要に応じ書面を作成し、個別に対応している。職員に対しても勉強会を持ち、改訂内容を伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が面会に来られた時は必ずご家族と話をすることを心掛け、普通の会話の中から、ご要望等はないか？くみ取れるよう注意している。無記名の「ホーム長直行便」のハガキを設置・定期的にご家族へ送付し、意見の聞き取りに努めている。 (外部評価) 「ホーム長直行便」というハガキや満足度アンケート調査（無記名）を家族に配布し、意見や要望を言いやすいようにしており、寄せられた意見は職員全員で話し合いケアに反映させている。職員は家族が面会に来た際には積極的に声かけを行う心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に職員に「改善シート」を配布し、意見や提案を聞く体制を整えている。職員会議に必ず、一人ひとりが意見を持ち参加するようにし、発表しやすい環境を作り、問題があれば改善するようにしている。</p> <p>(外部評価) 代表者は毎日ホームを訪れ職員とコミュニケーションを図っており、職員も気軽に意見を伝えることができる。代表者も出席する会議は、話しやすい雰囲気作り心掛け職員一人ひとりが意見を出し合い、話し合ったことを共有してケアに反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員確保、業務調整はその都度柔軟に調整している。個々の職員がやりがいを持てるように給与水準も少しづつあげている。自己評価し「楽しく仕事をする為に」をテーマで行い、各自の向上心を持って、働けるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 新人はプリセプターシップをとっている。毎月勉強会を開催し、全職員が参加出来るように計画している。必要であれば個別に対応している。外部研修にも参加の機会を作れるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他グループホームとの交流はあるが勉強会はしていない。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居者本人又はご家族から生活をしていく上での希望や悩みなどを聞き、ケアプランに取り入れ全職員が把握するよう努めている。相談から利用に到るまでに本人又はご家族に出来る限り、情報を集めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会に訪れた時などに、ご家族が思っている事や不安な事を傾聴していき、全職員が受け止めていけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」何が必要か、ご家族と本人と話しながら、その人にあった、サービスを（グループホームに適しているかどうか）検討行い、他のサービスの紹介、説明をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「その時」何が必要か、ご家族と本人と話しながら、その人にあった、サービスを（グループホームに適しているかどうか）検討行い、他のサービスの紹介、説明をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 花見・夏祭り・クリスマス会などの行事に参加してもらい、少しでも一緒に過ごせる環境を作り、面会時などには日々の生活を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 各方面の方からの面会もあり、県外の方で面会に来られない方は電話や葉書にて場合によっては葉書を代筆し支援に努めている。 (外部評価) 近隣の人が散歩の途中で立ち寄ってくれる等、近隣住民とも良好な関係が築かれている。家族が面会に来た際にはゆっくり過ごしてもらえよう心がけている。また、理美容師の訪問や、移動パン屋の販売等も馴染みとなっており利用者は楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングをホームポジションとし食事時以外でも他者との交流がはかれる様に努めている。また、散歩やレクリエーションを通して他者との関係の構築をはかっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後もご家族と連絡を密に取り、本人の様子など相談を受けることにより関係を断ち切らない様に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃の会話などから本人の思いを聞き出し、安心して生活していただく為にはどうしたらいいのか職員間で話し合う機会を設けている。 (外部評価) 日々の生活の関わりの中で信頼関係を築き、要望を聴き取るように努めている。コミュニケーションのとりにくい利用者には寄り添い、表情や態度から思いを把握している。家族にはホーム便りを発行し生活の様子を知らせ、さらに面会時には要望を聴き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に管理者が、ご家族や本人からこれまでの暮らしなど聞き取りを行い、入所されてからも関わりの中から本人の思いを聞きだせる様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録やセンター方式などを使用し、本人の1日の流れを把握している。日頃の生活の中でも、本人の得意な事を見つけ出し、それをしていただくことにより自信回復などにも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的なケアプランの見直し、状態の変化や入院等で日常動作の相違が生じた時は、その都度見直している。入居者本位のプラン作成に努めている。 (外部評価) 利用者の思いを大切にプランに反映させるよう努めている。介護記録に実施状況を記載しそれをデータ化して1か月ごとに評価を行っている。利用者一人ひとりに担当者をつけ担当者がプランの素案作りをする。全職員で検討し必要に応じて医師等の関係者にも相談している。家族の意見も聞き取り、最終確認もしてもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の記録は生活記録にしている。気付いた事やケアのヒント等は申し送りノートに記入している。またプランの評価を個別に残し会議の時に情報を交わし活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体調不良等、通院や送迎時必要に応じて支援している。又、医師とご家族とも相談し、マッサージが必要な方は在宅療養マッサージを依頼し利用している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のいきいきサロンへの参加や夏祭りへの参加、又ホームの夏祭りやクリスマス会等への参加を地域の方々から協力していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 協力医療機関とは別の病院で受診を希望される場合、 医療機関を相談し往診を受けたりご家族の協力を得て 受診してもらっている。看護師が対応し連携医療機関 の確保はしている。	
			<p>(外部評価)</p> 主治医による月2回の往診や、年1回の健康診断を実 施しており健康管理には十分配慮している。また、入 居以前からのかかりつけ医や医療機関で見てもらっ ている利用者もおり、利用者や家族の希望を尊重して いる。緊急時には対応できるように連携体制を整えて おりマニュアルを作成している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 日常的に入居者の健康状態を、ホーム内の看護師に報 告し、必要に応じた支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院見舞い、ご家族の希望を聞き相談を行っている。 長期間入院により重度化しないよう病院と連携を取り 経過の確認をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> ご家族と十分に話し合いながら、本人やご家族の気持 ちを大切にしながら安心感が持てるよう対応している。急変 時にはすぐに対応してもらえるように事前に医療機関 との連携もとれている。	
			<p>(外部評価)</p> 看取り介護については、利用者の状況に合わせて家族 と話し合いを密に持ち、さらに主治医や協力医療機 関、看護師、職員等関係者全員で連携をとりながら利 用者本位のケアができるよう努めている。	看取り介護についての基本的な学習を計画的に行い、 利用者の急変時にも対応できる知識や技術をさらに習 得するよう希望したい。また、マニュアルを作成し職 員が熟知しておく事でスムーズな対応が可能になるた め、検討することを希望したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な研修は行っていないが入居者の予測できる急変や事故について個別に指導を行っている。また、マニュアルを作成し新人研修で必ず指導を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力で年2回の防災訓練を行っている。災害用グッズを備えている。災害時マニュアルを作成し、緊急時にスムーズに対応できるようにしている。地域の方の協力もあり災害時には連絡すると応援に来ていただけるようになっている。 (外部評価) 避難訓練を年2回、うち1回は消防署の指導の下で実施し、内容も夜間想定訓練を行う等災害に対する意識は高い。また、地域の自主防災組織が行った防災訓練にも参加し、住民や近くの高校の生徒の協力を得て避難、消火の訓練も行った。スプリンクラーや火災通報装置も設置している。	利用者の居室には大型の家具等はないが、地震に備え危険と思われる所を入念に確認し、食器棚を固定する等の対策をとることを希望したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけないような配慮したケアや声掛けを行っている。一人ひとりの性格やその時々状況に合わせた対応声掛けに配慮している。 (外部評価) 個人情報の保護の大切さを管理者を始め職員は認識しており、細心の注意を払っている。また、職員一人ひとりが人生の先輩である利用者に対し尊敬の念を持って接している。居室には内鍵をかけることができ、利用者の意思で居室への立ち入りを制限する事もできる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望を引き出せるようコミュニケーションをとり担当者が利用者の意欲を引き出す為のサービス計画を立て全職員が実践に向けて協力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できる限り、個人の意思を優先しているが、リハビリ体操やレクリエーション、行事などADLの低下を防ぐ為にもなるべく参加していただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪は理・美容師に来てもらったり、家人と行ってカットされている。化粧品を使用している人もおられる。衣類も季節やその人に合ったものを着られている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食品を取り入れ、見て、味わって季節を感じていただいている。職員と一緒に食事をし会話を楽しんでいる。	
			(外部評価) 食前に口腔体操を取り入れ、誤嚥防止や機能維持に努めている。ホワイトボードに献立が書かれていたり、食事時間が近づくと職員が献立を話題にする等、雰囲気作りもされ職員と利用者が一緒に食事を楽しんでいる。利用者の状態に応じた食事形態を取る等配慮がされている。ホームの菜園で収穫した野菜を調理することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、一人、一人の水分、食事量を確認、記録している。習慣、病状に合わせた食事形態、量を考え配膳している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人、一人声掛け、見守りを行っている。必要な場合は職員が介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンリズムを日々チェックし、それらに応じ声掛けトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェックが詳細に記録されており、職員は排泄パターンを把握している。さりげなく声かけをしながら、それぞれに適した方法で排泄支援にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事に繊維の多い食材を取り入れ提供し、水分摂取・運動を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者に応じて、介助方法を変え、個々に応じ入浴回数、順番、入浴日、入浴時間など柔軟に対応している。入浴を拒む人に対しては、時間の変更や声掛けを工夫している。	
			(外部評価) 少なくとも週に3回は入浴するように計画されているが希望や身体状況により柔軟に対応している。機械浴を設置しており、重度化しても安楽に入浴できるよう準備されており実際に使用している利用者もいる。浴室は明るく、優しい色彩のタイルで気分も安らぐ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況により、居室誘導で休んでいただいたり、リビングのソファで横になったりしていただいている。時には雑談にも応じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に服薬ケースを使用している。職員支援のもと服薬している。症状の変化の確認に努めており、変化があると看護師に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 植物の水やりや、洗濯物をたたんでもらったりと、本人の好みに合わせ、役割を持って過ごして頂ける様に支援している。また、年間行事など季節に応じた催しをするようにしている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩に出掛けたり、定期的な外出行事を企画している。また、個別ケアとして本人の希望しているところへ出掛けたり、地域の行事への参加など戸外に出掛けられるよう支援している。	
			(外部評価) 毎日の散歩やホームの庭に出て外気に触れる等、利用者の状態に合わせて個別に外出支援している。また、スーパーや大型の衣料品店等での買い物や、お花見、菊花展等の季節の行事や催し物に、地域の方の協力を得ながら計画的に外出できている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる方は、小遣い程度は所持し新聞の支払い時に使っている。大きな買い物時、管理できない方はホームで立て替えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を読んだり、電話を掛ける場合は、居室でゆっくり時間が取れるようにしている。自力では困難な場合は、1対1で対応し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が塗った塗り絵や入居者同士で協力して作った作品をリビングや玄関に飾り、共通の話題が増えるようにしている。入居者それぞれの得意な事・好きな事に合わせて、畑や観葉植物・日めくりカレンダーを設置するなどの工夫をしている。	
			(外部評価) 玄関やリビングはゆったりとしたスペースが設けられ、利用者が芸術療法で制作した素敵な作品が飾られたり、観葉植物が置かれたりしており居心地よく過ごせるよう配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共通空間の中にも、個人に合わせて座りやすい椅子を用意し、入居者同士の相性を考慮して座位置を決めて、過ごしやすい居場所になるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具やテレビ等、なじみの物を使用されたり、本人が絵や写真、家具をレイアウトし、自分好みの居心地の良い部屋になるように工夫している。布団での就寝を望まれる方はベッドをのけて、床にマットと布団を敷き安心して、睡眠がとれるように工夫している。	
			(外部評価) 居室にはテレビや仏壇、時計、観葉植物等利用者の希望や生活スタイルに応じた物を自由に持ち込んでもらい、利用者本人が居心地よく心安らぐよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 必要に応じて椅子に杖たてを作りつけ、杖歩行の方が、椅子に安全に腰掛けれるような工夫をしたり、動いた際に、テーブルの端で怪我のないように、タオルを貼り付ける等の工夫をしている。又、必要な方には車椅子と歩行器を準備し、体調に合わせて勧め、安全かつ自立出来るように努めている。	